

さざなみ

国語教室

さざなみ国語教室
 第503号 2024年2月25日
 発行者代表 吉永幸司
 連絡先 大津市柳川2-11-5
 TEL 077-522-1008
 発行所 滋賀児童文化協会
 NPO 現代の教育問題研究所

SDGsは清貧の思想か 新貝朗

最近、環境問題やSDGsなどが話題になっていきます。気候変動、環境破壊、食糧不足、紛争、エネルギー問題、貧困、ジェンダーなど多岐にわたっています。持続可能な社会にするためには、5R、自然エネルギーへの転換、冷房を28℃暖房は20℃、HIT、残菜を減らす、無駄遣いをやめる、マイバッグ持参など、本校児童も関心をもち始めています。あるテレビ番組で、「江戸時代は超リサイクル社会だった。いっそのこと江戸時代の生活に戻った方がよいのでは？古き良き時代への原点回帰しかない!？」等の意見もあり、肯定の意見もちらほら。

昔に戻ればそれでよいのか？そんな単純なものではないでしょう……、と思うのですが。

以前、と言ってもバブルが崩壊したとき、「清貧の思想」という1冊の書物がベストセラーになりました。若者世代ではご存じないかもしれませんが、世の中の浮かれすぎに警鐘を鳴らし、光悦、長明、兼好ら古人の生き方を紹介し清貧に脚光を浴びせた一冊です。貧しくてもいい清らかに生きる、つましく生活する、確かに大切なことでしょう。しかし、清貧のままでは停滞してしまいうすまます。原点回帰した後には繰り返す1歩が大切だと思います。

ESD、SDGsの“D”は“Development”です。発展・開発です。この発展という考えが必要なのではないでしょうか。よりよく生活したい。その想いが次代のキーワード“Well-being”にながっている気がします。自然破壊につながる開発、独りよがりな発展では話になりません。だからこそ、「誰一人取り残さない」「持続可能な開発」であるSDGsなのでしょう。

昨今の、SDGsは大衆のアンだとか、「レジ袋要りません」とSDGsを実践している気になっている、「SDGsという言葉に酔っているのでは?」。あなたが使っているそのマイバッグを製造・運輸の過程でどれだけのCO2を排出しているか、どれだけの過重労働が課せられているか、どれだけの森が壊されているかなどの“グリーンウォッシュ”という視点も大切です。

先が読めない時代、答のない時代と言われています。だからこそ、自分たちには何ができるか、自分はどう考えるかなどを日々子供に投げかけています。
(東京都江東区立第二辰巳小学校 長)



▼私立小学校の6年生は中学校受験があり、勤務している小学校では「面接の練習」という学習活動を設けています。一人5分という時間を設定して一人一人が面接を受けるという仕組みです▼その担当になり、「面接」を「面談」に置き換えて指導をしました。目的は「自分の話ができること」「質問意図を理解し適切に答えること」でした。「面談」にしたのは、練習でなく、6年間で育ててきたものを人間力の視点で知りたいという気持ちが強かったからです▼面談時間の最初の、3分を自分のことを知ってもらうことを目的にしたスピーチ、残りの2分を対話にしました。国語科で習得したスピーチ力の実際の場で発揮することにしたのです。2分たったところで「2分です」と合図をしました。残り2分では、「母校となる小学校」を話題にして私を含めて学校の評価を聞く時間になりました。79名の面談をした3日間は、聞いていてわくわくするものばかりでした。いわゆる、人間力が滲み出ていたからです▼話を終わった子がホッとしていたとき、「残り10秒ありますよ」と伝えた時、すかさず、「話を聞いてくださってありがとうございます。」と言った子がいました。思わず、その気持ちと言葉に納得のひと言でした。
(吉永幸司)

「ことば」を豊かに育てる取り組み
高木 富也

さざなみ国語教室、滋賀県国語科部の研究に参加するようになった。これまでに「ことば」に注目して日々の実践を行うようになった。なかなか「ことば」をじっくり育てる時間の保証が難しいのが正直なところではあるが、だからこそ3学期が始まって2週間は、「ことば」を意識して指導した。

①俳句に親しもう
五七五、季語などを押さえた後は、お気に入りの俳句を試写する活動をした。一文字一文字集中し、自分なりに丁寧な視写をし、学習用タブリットも活用しながら挿し絵を描くことで、俳句の世界観を想像することができた。

②五色百人一首で遊ぼう
五七五七七の短歌、歴史や文化を押し入れた後は、みんなで遊んだ。ことばを覚えると、札を取りやすかった。伝統的な遊びを楽しみながら、ことばや音に触れることができた。

③書き初めをしよう
滋賀県の特徴的な毛筆。ことば、形から想像して、ダイナミックに送筆。まがりやはらいの面白さに着目することができた。

④心が動いたことを詩で表そう
ウエビングマップでことばを拡散、教師による詩集の読み聞かせを通して、良い詩のポイントを見つけて、真似しながら詩を創作し、学習用タブリットで検索し、レイアウトの要素を参考にしながら、表現することができた。文章だけではなく、児童の作品を紹介する。地球みたいなきれいなしゃぼん玉

地球のよう、キラキラがやいていた。空を見てもヒューといっていた。空に消えていった。↓比喩表現を用いて、しゃぼん玉の輝きと空に消える儚さを表現することができた。

「ベイブレード」であそんだよ。くるまわったよ。ぼくもいつしよるまわったよ。かんせんのようないまわったよ。べいぶレードがあつたよ。またやりたいたいな。↓ぼくもいつしよるまわったよ。表記にしたことで、幼さと楽しさが伝わる詩となった。

「もぐらこたつに入るともぐらみたけだせなくなる。もぐらたらぬけにでたら死ぬぐらい寒い。だからもぐらおはね野呂さかんの詩。おふとんとネルの読み聞かせから着想を得た表現である。寒さに耐えられずこたつにもぐら自分を、文字通りもぐらにとえたりぬく実践は、奇をてらったものではない。実践は、あくまで、教科書準拠の内容である。しかしながら、シンプルな中にも、教師も子どもも「ことばを意識する」というゴールを共有しながら、あえて2週間「ベイブレード」短期合宿のようなくれ、豊かに楽しむことができた。

子どもたちの表現はとてユニークで、自分の表現がぐっと変わったことを喜んでいました。今後とも「ことば」に注目しながら子どもを育てたいです。
(東近江市立能登川南小学校)

つながる言葉
司削 裕之

6年生の4月、学級日誌の感想欄に、「〇〇さん、がんばってください」と次の日の日直さんへのメッセージが書かれていることに感動した。おそらく、5年生までの習慣だったのだろう。あたたかい文化の中で育ってきたことがわかった。

3学期、これまで使っていた学級日誌のページが終わった。新しいものを用意しようとしたが、片づけた場所を忘れてしまい、取り急ぎ無地のノートを手渡した。「何を書いたらいいですか」と尋ねられたので、「どんな内容でもいいので、その日の学級の記録を書き残してください」と答えた。初めのうちは、「日付」「先生の話」「時間割と学習内容」「欠席者」など、これまでの学級日誌にあったような3日目の日直さんが、「一言」のコーナーを作った。そこには、「今日も寒い」と書かれていた。「今日も寒い」と書かれていた。また、「みんなまで推し」を共有しよう」という交流欄もあった。そこには自分が好きなものがたくさん書かれていて、「ぜひ書いてね」と添えてあった。基本的に学級日誌は、教師・児童間でやりとりするものと考えていたが、これまで次の日直さんへのメッセージを書き続けてきた子どもたちである。学級全体に、「日直になつたら、これまでのページもぜひ読み返してみてください」と伝えた。

1月15日の日直さんは、「1月15日の豆知識」と題して、「いむを書いていた。別の日の日直さ

んは、学習発表会で劇をするメンバーにインタビュをし、そのコメントを記事にしていた。また別の日直さんは、「ミニミニ雑学」として、宇宙一強い最強の動物「クマムシ」について調べたことが書かれていた。しりとりにコーナーもあり、「リンゴ」「ゴリラ」「ライム」：と日をまたいで続いている。「今日の3つの感謝」では、「友達がおいた物をひろってくれた」「給食がおいしかった」とその日に感謝したことが綴られていた。それを読んだ次の日の日直さんも同じコーナーを設けていて、「けがをした時に心配してもらった」「将棋を一緒にしてくれた」と書いていた。

私は小学生で、インターネットの事はよく分かりませんが、それらの友達との関わりでは、自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしてコミュニケーションをとっていました。それで私は仲の良い友達を作ることができました。中学校で離ればなれになる友達や日本を離れる友達、世界中どこにいてもインターネットがあればすぐに連絡できるのでさみしくありません。

国語の時間に『メディアと人間社会』(池上彰氏)と『大切な人と深くつながるために』(鴻上尚史氏)の読み比べをした際、ある児童が書いた感想だ。いつも笑顔を絶やさず、誰とでも分け隔てなく接することのできる素直な子である。子どもたちには、どのような方法を選んで、つながる言葉を大切に人と関わってほしい。
(京都女子大学附属小学校)

ウナギ博士になりたいS君
少徳 信

学級で、「ウナギのなぞを追って」の学習に取り組んだ。どのよう
に調査が進んだのかをまとめる
ために、地図にレプトセファルス
や海山、フロント、たまごが見つ
かった場所を書き込みながら学習
を進めていったのだが、完成した
地図を見てS君が話し始めた。
S「こうしてみると、なかなかや
なあ」
T「どんなところがなかなかな
ん？」
S「日本こやん、それでたまご
ここやん、めっちゃ遠いやん」
T「そやなあ。行くだけで時間か
かるのに、たまごを探しながらな
んで想像できひんなあ」
S「地図で見たら、ふつうにいけ
るやんって思ったんやけど、塚本
さんは考えながら行ってたんや
ろ。おれさ、これ読んでウナギめ
っちゃおもろいやんって思った
わ。先生、おれもウナギ研究して
ウナギ博士になるわ！」
T「ええやん。また船のせてな」
S「めっちゃでっかいウナギ持っ
てきてウナギパーティーしてあげ
るわ」
T「楽しみにしてるわ」
一連の会話をふりかえってみ
て、説明的な文章を読もうとする
とき、正しく理解しようとするあ
まりに言葉の意味や文章から分か
ることばかりに集中してしまふこ
とがあると気づいた。もちろん、こ
筆者の主張や論の展開など押さえ
なければならぬこともある。今
回の単元でも、興味を持ったこと
を中心に紹介することに軸足を置

いたため、展開や内容を確実に
押さえる必要があったのは言うま
でもない。しかし、それらをすべ
て押さえていくことだけが読むこ
とではないのだろうと思う。S君
のように、素直に自分の感情を入
れ込みながら読んでいくことも、
紛れもなく読むことの一部であろ
う。続いてS君は、こんな話をし
てくれた。
S「おれさ、釣り好きやねん」
T「ああ、家族でよく行くとて言
ってたな」
S「だからな、塚本さんが海で頑
張ってるの、なんかわかる気がす
るねん」
T「どういうこと？」
S「釣りってな、適当にやってみ
ても絶対釣れへんねん。ルアーとか
な、えさの付け方とか、いろいろ
工夫していくと釣れるやん。だ
からな、塚本さんは別に釣りって
訳じゃないけど、めっちゃ考えて
(調査を)するの、ああ、なん
かわかる気がする」
T「そうか、していることは違っ
ても、同じ海の男やからわかるこ
ともあるんか」
S「うん、そう」
このように、S君は文章からわ
かったことと自分の経験や感覚と
をうまく融合させながら「ウナギ
のなぞを追って」の文章を読んで
いたのだろう。全員が確実にでき
てほしい読み方もあれば、S君の
ように自分だからできる読み方も
ある。S君は文章を通して塚本さ
んと対話をし、自分とも対話をし
ていたのだろうと感じた。
S君との会話から、また読むこ
との豊かさや面白さを感じるこ
とができた。
(彦根市立高宮小学校)

「言葉の楽しさ」に触れる
谷口 映介

「数え方を生みだそう」(東京書
籍四年下)の実践を報告する。本
教材は、普段意識することなく用
いている日本語の数え方(助数
詞)の特徴や機能について述べ
られた文章である。文章中に多く
の事例を挙げ、「数える物の特徴
に注目して、新しい数え方を考え
ることで、日本語がもっと便利で
表情豊かになるのではないか。」
という筆者の主張を展開してい
る。学習では、次の点に留意して
単元を組み立てた。
①文章から納得すること・疑問点
を見つめる。(感想①)
②課題から問いを持つ。
どんな事例がいくつある？
各事例で何を主張している？
③筆者の主張をもとに、新しい数
え方を生み出す。
④単元のまとめとして、「日本語
の数え方」について、自分の考え
を書きまとめる。(感想②)
子ども達がまず着目したのは、
アメリカの子ども達の数え方を表
した事例である。ニンジンを一
ガリ」等と数えることに大いに驚
き、自分が長さにしか着目してい
なかつたことに気付かされた。こ
こから、主張を裏付けするために、
②の問いを課題として追究してい
った。全文を一枚にまとめたシー
トを用いながら、線を引いたり、
表にまとめたりする活動を進めた

③の活動では、筆者の主張に共感
した上で、意欲的な交流が行われ
た。
C…筆者は、「日本語の数え方に
は色やにおい、かたさや手ざわり、
温度、味、古さ、好き嫌いなど
を表すものがない」と言っていま
す。そこで、ぼくは、せんべいを
「一パリ、二パリ」と数えたいと
思います。一番の特徴はこの硬さ
や音にあると思います。
C…私は、ウサギはふわふわした
毛並が特徴だから、「一ふわ」が
いいと思います。
子ども達は、物の特徴を多面的
に捉え、新たな数え方を生み出し
ていった。学習のまとめでは、初
発の感想と比べながら、筆者が述
べていることと、それを受けた自
分の考えを文章に書き表した。既
習の「引用」の仕方を確認し、納
得したことや更に疑問に思ったこ
ととその理由、日本語の数え方等
について考えたことをまとめた。
C…(前略)「言葉のじゆうなんさ
にも目を向けることが大切」であ
るといふ考えに納得しました。だ
れでも言葉を生みだせるというす
ばらしさについて、例を挙げなが
ら書いているからです。ぼくもこ
れからは、色々な見方ができるこ
とを大切にしていきたいです。
自由に発想する楽しさや考え方
の違いの面白さを感じながら、文
章をもとに学習する姿が印象的
であった。
(竜王町立竜王小学校)

「個の学びを育む」

三上 昌男

滋賀県小学校教育研究会国語部会のOBによる「滋賀国語の会」がある。コロナ禍で中断されていた総会が昨年十一月に開催され、私は、「国語教育によせる私の思い」という題で、発表する機会をいただいた。発表資料作成のため、過去の資料を振り返っていると、次のような記録が見つかった。それは、一九九四年に開催された研究発表大会の低学年部会の研究実践資料である。研究主題「こ

「ことばとの出会いを楽しむ」とは、私たちがめざす低学年の子どもの学びの姿である。言い換えると、言葉の約束にしたがって自分の思いを言葉や文章にしようとする意欲をもった子どもであり、進んで言葉や文章に関わろうとする子どもである。このような学びの姿を支えるのは、子どもたちが「言葉の学び手」として育っていくことを願う指導者の「支援」である。一人ひとりの子どもが、どんな思いを抱いて学習に取り組んでいるのかを、学習中の発言や表情・ノート等を通して見取り、個々の思いを実現させる方向で適切な援助に努めていかなければならない。例えば、子ども自身が学び方を工夫したり選択したりする場を設けると、「こんな学習を進めていきたい」という自分の意思を明らかにする必要に迫られる。それは、子どもが主体的に学ぶための内発的な学習意欲を喚起することとなり、学習は勢いづく。指導者は、子どもたちの多様な思いに柔軟に対応できる姿勢をもち、具体的な支援の仕方を工夫していかなければならない。その際、一人ひとりの子どもがもつ思いをその子のよさとして受け止める、その思いを最大限生かし伸ばすことに努めていくことが大事である。

ある。そのための評価の視点を目標（関心・意欲・態度・表現、理解、言語事項）と対応させて設定し、個々の学習が成立するための「支援」に生かしていくように考えたい。次に、「成果と課題」の一部を紹介したい。◇子どもと教材をつなぐ。教材の特性と子どもの実態を把握した上で、教材と出会う子どもについて考えていくと、「こんな学習がしてみたい」と願う子どもの姿が見えてきた。こうした子どもの思いをもとに学習展開を構想することで、確かに子どもの内発的な学習意欲が喚起できた。常に「子どもの側に立つ教材研究」が行われなければならない。◇見取りと支援。個の学びを大切にする立場から、一人ひとりの学びの姿を見取り、個に応じた支援をする方向をめざしてきた。子どもが学習の仕方を工夫したり選択したりすることにより、自分たちの力で学習を進めていこうとする学びの勢いが感じられた。ぐいぐいと活動を進める子どもは、学習の見通しをもった子どもである。つまづいていない子どもには、その子の思いや学習の進み具合を確かめながら、学習の見通しをもたせるような援助が必要である。三十年の時を経て、「個別最適な学び」の取り組みにつながっているように感じている。

編集後記

（五〇二回）

研究会滋賀大会」の滋賀の拡大運営委員会が全体計画決定しました。また、「第5回近江の子どもの俳句教室」の作品鑑賞文の学習会及び月例研究会の提案を行いました。月例研究会の提案は山田定子さん（北野小）研究教材は「ありの行」列（光村3年下）研究主題は「言葉の力をつけるために」で、1時間間の授業録画とノートをもとに実践の積み上げの結果、授業について次が話題になりました。「読むこと」では、すらすらと読める子が多い。語句の理解では、進んで教材の内容が結びついている。「話すこと」では、「文末までしっかりと話す」と「書くこと」では、「板書とノート、ワークシート」の特性を生かし文章を書く機会を増やすことなどが主な内容でした。研究協議では①ワークシートの活用を通して、読みの力が育っていること。②学習内容を深めるための教師の板書の仕方の進め方。③全員発言を軸にした授業の進め方について（ペアで相談することと全体の話し合い）。④タブレット端末を活用した授業への展望。⑤授業の最終段階の振り返りの効果的な指導方法。▼学習内容を深める上でペアやグループ及び全体の話し合いを大事にしている授業が多く見られます。山田学級では、話したいことを大事にしたいことを持つことの指導を大事にしていることを共有しました。活用。▼特